# 青少年育成センターだより

第１２９号　２０２２．２．１５

防府市教育委員会生涯学習課
青少年育成センター
０８３５－２３－３０１３

**「東風吹かば　にほいおこせよ　梅の花　あるじなしとて　春な忘れそ」　　菅原道真**

（春の東風が吹いたらその香りを私のもとに送っておくれ、梅の花よ。主人である私がいなくなっても春に咲くことを忘れるなよ）

この歌は、防府に住んでいるみなさんはよく知っておられることでしょう。菅原道真は京から太宰府に向かう途中に防府に滞在され、とても防府の地を気に入り、「身は筑紫にて果つるとも、魂魄は必ずこの地に帰り来らん」とお誓いになったそうです。これが「防府天満宮」の由来です。

２月になりました。まだまだ、寒い日が続いていますが、２月には、「節分」があり、「立春」があります。この立春を境に徐々に春になっていき、これから草木が芽吹き、土の中の虫も動き始めます。始動のときめきが感じられる季節です。

## 五感を澄ませて

街中で、大人も子どもも男性も女性も多くの人がスマホを見ながら歩いている姿を見ます。スマホの画面に注意がいき、つまずいたり、転んだり、障害物にぶつかってしまったりして怪我をするのではないかと気になってしまいます。私と同じ思いをもってその姿を見ておられる人も多いのではないでしょうか。

スマホはポケットに入れておいて、周りを見てみませんか。いろいろな発見があるのではないでしょうか。澄み切った青空が見られたり、季節の花が咲いていたり、木立に鳥が止まってさえずっていたり、仲の良さそうな男女が笑い合っていたり・・・。目や耳が喜ぶような様々なものを感じることができます。スマホの小さな画面を見ることは止め、広い空間に目を向けましょう。そのほうが身体にもいいですし、精神的にもいいと思います。

ヘレン・ケラーは、次のようなことを言っています。

> ある日、森の中を長い間歩いてきた友人に、ヘレンは森の中にはどんなものがあったかと尋ねました。すると、友人は「別に何も」と答えたのです。その時に感じたことです。
>
> 「一時間も森の中を散歩して、『別に何も』なんてことがどうしたら言えるのだろうと思いました。目の見えない私にもたくさんのものを見つけることができます。左右対称の繊細な葉、白樺のなめらかな木肌、荒々しくゴツゴツとした松の木の樹液・・・。目の見えない私から、目の見えるみなさんにお願いがあります。明日、突然目が見えなくなってしまうかのように思って、すべてのものを見てください。そして、明日、耳が聞こえなくなってしまうかのように思って、人々の歌声を、小鳥の声を、オーケストラの力強い響きを聞いてください。明日、触覚がなくなってしまうかのように思って、あらゆるものに触ってみてください。明日、嗅覚と味覚を失うかのように思って、花の香りをかぎ、食べ物を一口ずつ味わってください。五感を最大限に使ってください。世界があなたに見せてくれているすべてのもの、喜び、美しさを讃えましょう」
>
> （「ハーバードの人生を変える授業」だいわ文庫）

ここに書いてあるように、目が見えない、耳が聞こえない、話せない状況のヘレンは、多くのことを見たり、聞いたりしていたようです。目が見えなくても耳が聞こえなくても、彼女が持っている心の感性で物を見ていたのでしょう。ヘレンが言っています。「目と耳と触覚と嗅覚、私たち人間が持っているすべての感覚を活用して、私たちの世界をしっかり見ようではありませんか、感じようではありませんか」と。

スマホは、ポケットにしまって散歩をしてみましょう。きっとそこには、スマホの中で出会った物、デジタルとは違った、生きた本物に出会うことができるはずです。特に感性の豊かな子どもの時には、自然に対して目や耳を向けることはとても大切な体験なのです。

文責＝青少年育成センター指導員　藤村